

審査員講評

●近畿中国森林管理局長賞【森林で見つけた動植物】●

『森林に生きる』 谷水 毅 （広島県竹原市）

・晩夏から秋にかけブナの枯木や倒木に群生するツキヨダケ。その昼夜二つの顔を、三脚に固定したカメラで見事に捉えています。夜の長時間露光で流れる星々を背景に、緑色に発光するツキヨダケの写真は秀逸です。

・命を終えたブナが、ツキヨダケの菌糸の働きでゆっくりと土に還っていきます。そしていよいよ子実体が顔を出し、夜になればこんな不思議な光の情景が繰り広げられているというのです。森の循環を神秘的に物語る組写真です。

●近畿中国森林管理局長賞【森林での体験・活動】●

『シイタケの育つ森づくり』 飛鳥里山クラブ里山づくり隊 和本 仁司 （奈良県桜井市）

・栽培に必要な「ほだ木」確保のクヌギ植樹から、3年前にドングリ（コナラ属樹木）を使う資源循環体系へ。数年先にシイタケが一杯育つ森を夢見るその記録の現時点は「起承転・」までですが、3枚組みで上手く纏めた作品です。

・シイタケを育てる「ほだ木」はクヌギ。飛鳥里山クラブでは、ドングリを撒くところから始めてクヌギを育成し、伐採収穫してシイタケ菌接種、ほだ場を造って、シイタケ栽培・収穫。その資源循環的体系を3枚の組写真で。

●近畿中国森林管理局長賞【木材と人との触れあい】●

『ケヤキと私だけの世界』 一般社団法人Mint Green 末武 和之 （奈良県奈良市）

・自然体験キャンプでケヤキのスプーン作りに挑戦する一人の女の子に焦点を絞り、彼女の2日間真剣に取り組む姿を、時間経過を追いながら的確なアングルで組み写真の見本のような作品に仕上げた秀作です。

・彫刻に建築に古くから使われてきたケヤキ。その感触を存分に味わえたことが伝わってきて、作品を愛用している姿まで想像させられました。ケヤキは森でも街角でも出合える木、きっと目にとまるようになったことでしょう。

●水都おおさか森林の市賞【木材と人との触れあい】●

『大阪のまちなかで山遊び』 柿本 大治 （大阪市都島区）

・山の日PRの開催イベント「大阪のまちなかで山遊び！」を、可愛いお嬢さんをモデルにアップ気味3枚の写真で紹介です。フォレスター制服のポートレートが素晴らしいのですが帽子・胸の文字が中途半端なところが惜しいですね。

・今の子供たちは、紙を見ても製品の結果のみを知識として知っており、途中の経過や仕組みを体験したり考える場がほとんどないのではないかと思います。

人と同じく大切に育てられてきた木が親子の触れ合いの仲立ちとなり、また木と友達になることから山に親しみ、山や森林がもたらす様々な恩恵に関心をもっていただく

っかけになればと「山の日」PRイベントや水都おおさか森林の市が開催されていますが、この作品はまさにこの情感を醸し出していると思われま

●優秀賞【森林で見つけた動植物】●

『森林の寝台（もりのベッド）』 土屋 達也 （大阪市住吉区）

・箕面（大阪府箕面市）の山奥・鉢伏山周辺には地域で絶滅の恐れのあるニホンリスが細々と生息しています。その可愛い昼寝姿を捉えた2枚からは、7年かけて彼らを追いつける作者の野生に対する暖かい眼差しが伝わってきます。

・ニホンリスは本州で見られる日本固有種、森にとっても大切な存在です。機敏なリスがお気に入りの枝でゆったりお昼寝をする姿に、こんな風に安心して暮らせる森がもっと広がり、保たれていくことを願わされる作品でした。

●優秀賞【森林での体験・活動】●

『柳生への道は森の中』 吉田 宏 （神奈川県横浜市）

・晩秋の柳生街道の美しい紅葉の光景です。春日山原始林の写真が素晴らしいのですがハイカーが分かり辛く画面下部をトリミングして人を少し大きく見せ、加えて石畳の滝坂の道でもう1カットあれば良い組写真になったでしょう。

・奈良から柳生への柳生街道、春日山原始林に続く今や紅葉真っ盛りの森を抜けて。沿道に、古来人々との深い交わりを教えてくれる磨崖佛いくつも。人の文化を生み、それを育て支えてくれる森。紅葉の美しさひと際映えて。

●優秀賞【森林での体験・活動】●

『木登り大成功！！』 ホーイカブ富田林第1団カブスカウト隊 北 幹雄 （大阪府富田林市）

・日頃体験できない木登りに挑戦するカブスカウトたち。そんな子供達の姿を大阪富田林市の約66畝もある自然豊かな錦織公園で活写。みんな初めての樹上やそこから見える世界に大感動したようで、笑顔が楽しい作品になりました。

・高い梢ではどんな風が吹きどんな香りがしてどんな光が満ちていたのでしょうか。木と一体になったツリークライミングの笑顔溢れる体験が、木のことを知りたくなり、森のことを考えたくなる気持ちに繋がっていきますように。

●審査員特別賞【森林で見つけた動植物】●

『森の精』 上萩 寛 （滋賀県大津市）

・京都北山の台杉は古木が樹齢500年以上とも言われます。貴重なその「森の精」との出会いですが、3枚とも同様な絵づらになったのが残念。目や口、腕のような姿を人に見立て構えると、まさに精霊との出会いになります。

・平安京建設に沢山の材木を供給した丹波の森林。その裏日本系スギは、伐根からよく萌芽し、放置されるとこのような幻想的な雰囲気をもつ樹形を生みました。この萌芽性は応用されて、「北山台杉」を生んだと聞いています。